



第1分科会



「幸せに育ち学ぶ」



- 司会者 ○ **二木 幸子** 岡山県手をつなぐ育成会津山地域連絡協議会副会長
野本 明美 高知市手をつなぐ育成会
- 助言者 ○ **本井 健太** 岡山県教育庁特別支援教育課指導主事
田中 正哉 高知県知的障害者育成会支援部長
- 提言者 ○ **荒井 幸治** 岡山県手をつなぐ育成会津山地域連絡協議会会長
石田 佳織 ウイッシュかがみの保護者
- 記録者 **福田真紀子** 香川県立香川中部養護学校保護者
炭井 倫子 香川県立香川中部養護学校保護者
- 運営責任者 **穴吹 弘子** 香川県立香川西部養護学校校長

津山地域、どんな場所？

津山市は、岡山県北東部に位置し、周りを山々に囲まれた盆地で中央部を吉井川の清流が流れる、豊かな自然に包まれた地である。

- ・城下町として四百年の歴史をもつ。
- ・人口 約十万六千人
- ・津山地域 津山市・苫田郡(鏡野町)・久米郡(美咲町・久米南町)
(美作県民局管内の一市、二郡)

津山地域ってどんな場所？



第一章 津山市手をつなぐ育成会の歴史……

教育委員会に事務局設置の経緯

- * 昭和31年6月 津山市立第一小学校特殊学級設置(牧野学級)
 - * 昭和34年5月 岡山県精神薄弱児育成会の発足。
(現 岡山県手をつなぐ育成会)
 - * 昭和35年7月 津山市精神薄弱者育成会の立ち上げの呼びかけ。
津山市、教育、医療、福祉、ライオンズクラブ、PTA、各界代表者、25名
 - * 昭和35年10月 1000名賛同を得て、会長川端克己(津山ライオンズクラブ会長)
津山市教育委員会に事務所を設ける 総予算額(118.070円)
- ①特殊教育啓発に関する講演・会報の発行等による社会啓発
②精神薄弱児作品展の開催・就職促進・精神薄弱児相談会の開催
③特殊学級への助成金配布
- ①②③の活動をおこなった。現在の津山市手をつなぐ育成会の前身です。

第二章 岡山県手をつなぐ育成会 連絡協議会発足

平成19年3月 津山地域連絡協議会(津山市・苫田郡・久米郡)

1) 目的 =地域に根差した育成会の活動推進=

* 育成会活動の活性化

県育成会 ⇄ 各育成会・親の会 から 地県育成会 ⇄ 域連絡協議会 へ

* 各団体の連携による活性化 * 地域のニーズの把握

* 地域の関係機関等との連携の促進

2) 構成メンバー(五部会編成)

* 地域部会(地域親の会*本人の会を含む) 12団体 * 施設部会 14団体

* 知的障害者相談員 18名 * 小規模事業所 10作業所 * 学校部会 3団体

3) 活動の概要

① 加盟団体の連携 理事会・総会・研修会

② 教育との連携 特別支援学級訪問(ブロック交流会)

岡山県立誕生寺支援学校訪問(PTAと懇談)

③ 地域啓発活動 警察署訪問、公共交通機関訪問

- ・ ④ 知的障害者相談員による相談活動と関係機関との連携
- ・ ⑤ 関係団体との連携 障害者自立支援協議会へ加盟
民生・児童委員協議会と連携

*** 現在、県下8地域で立ち上げ、2地域で準備中**

続いて地域親の会の研修会、色んな関係団体・機関とのネットワークについて説明します。

津山地域自立支援協議会構成員

- | | |
|---------------------------------------|----------------------|
| (1) 各市町村保健福祉担当者
(津山市、鏡野町、美咲町、久米南町) | (21) 共栄会 |
| (2) つやま地域生活支援センターつばさ | (22) デイケアセンタービーハウス |
| (3) 美作地域生活支援センター | (23) 津山市社会福祉協議会 |
| (4) 地域生活支援センターネクスト津山 | (24) 鏡野町社会福祉協議会 |
| (5) 津山障害者就業・生活支援センター | (25) 美咲町社会福祉協議会 |
| (6) 津山すこやか・こどもセンター | (26) 久米南町社会福祉協議会 |
| (7) 就労継続支援事業所ウイズ | (27) 津山身体障害者福祉協会 |
| (8) 岡山県立誕生寺支援学校 | (28) 知的障害者相談員代表 |
| (9) 希望ヶ丘ホスピタル | (29) 精神障害者家族の会代表 |
| (10) 積善病院 | (30) 津山市手をつなぐ育成会 |
| (11) 津山公共職業安定所 | (31) 津山地域連絡協議会 |
| (12) 津山児童相談所(知的障害者更生相談所津山支所) | (32) どんぐり工房 |
| (13) 神南備園 | (33) おかやま発達障害者支援センター |
| (14) 津山ひかり学園 | (34) 美作県民局健康福祉部 |
| (15) 津山みのり学園 | (35) 相談支援事業所きぼう |
| (16) みさき福祉園 | (36) 鏡野町相談支援センターいろいろ |
| (17) NPO法人ふれあいの丘ゆうあい | (36) その他必要と認める者 |
| (18) みすす荘 (19) あすなろ園 (20) さやかなる苑 | |

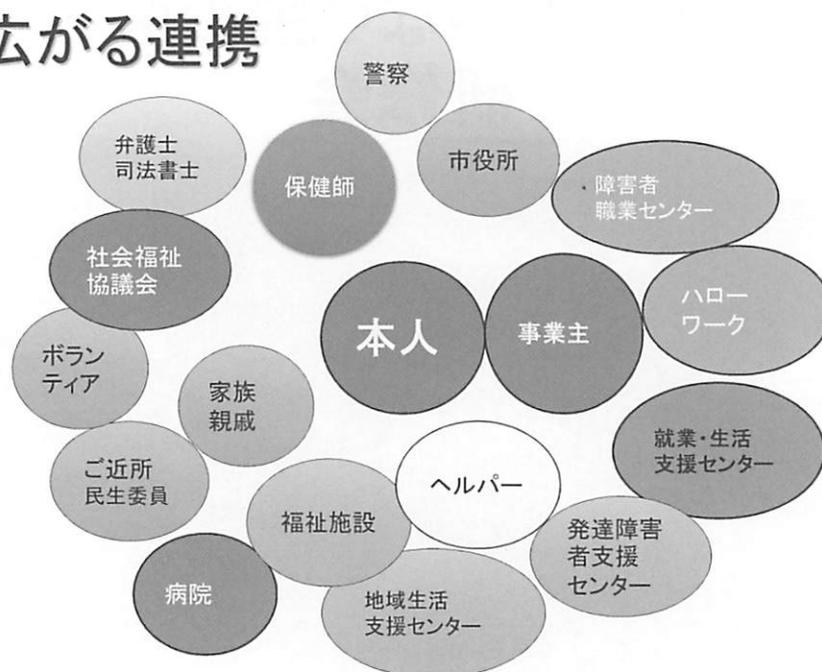
津山手をつなぐ親の会の 研修会



障害年金について勉強した



広がる連携



第三章 津山市内八中学校特別支援学級ブロック 交流会へ参加

① 特別支援学級ブロック交流会とは

八つの中学校ブロックごとに、小・中学校の特別支援学級在席児童生徒が、年二回合同交流会を開催し、その内一回は保護者と育成会の懇談会

② 保護者との懇談会

- * 平成20年度より実施
- * 連絡協議会理事、相談員 8名
- * 時間は1.5～2.0時間 (児童生徒の交流時間)
- * 懇談内容 (教育、進路、生活全般、教育・福祉の情報提供)
- * 育成会活動を理解してもらい、卒業後も育成会とのつながりを

③ 保護者参加者延べ人数

平成24年度	159名	平成25年度	110名
平成26年度	122名	平成27年度	131名

☆ 育成会の事業「愛の募金」活動により特別支援学級に助成 ☆

津山市の特別支援学級在籍児童・生徒数の変遷

	H17	H19	H21	H23	H25	H27
小学校知的	58	71	76	93	89	91
小学校情緒	38	70	97	142	148	135
小学校計	96	141	173	235	237 ₃	226 ₃₉
中学校知的	24	21	45	42	38	53
中学校情緒	6	14	32	27	29	46
中学校計	30	35	77	69	67 ₂₀	99 ₃₃
合計	126	176	250	304	304	325

東中特別支援ブロック交流会



保護者との懇談会 (NO.1)



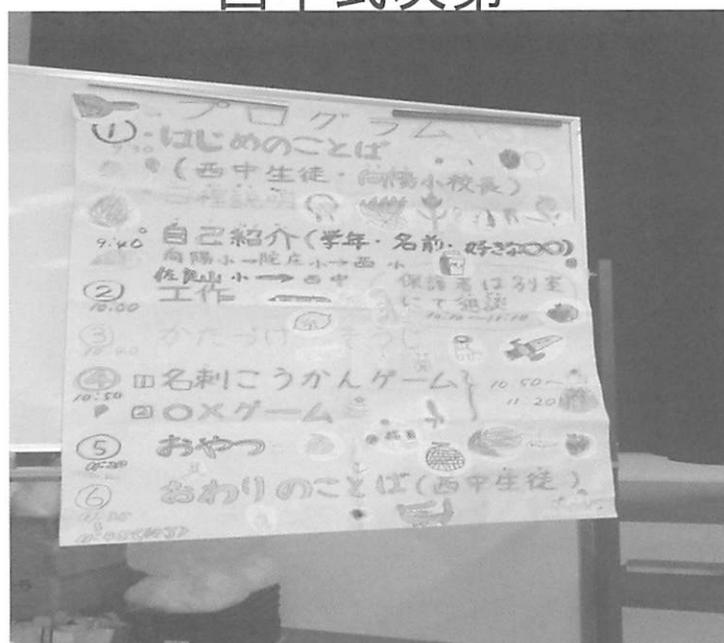
保護者との懇談会 (NO.2)



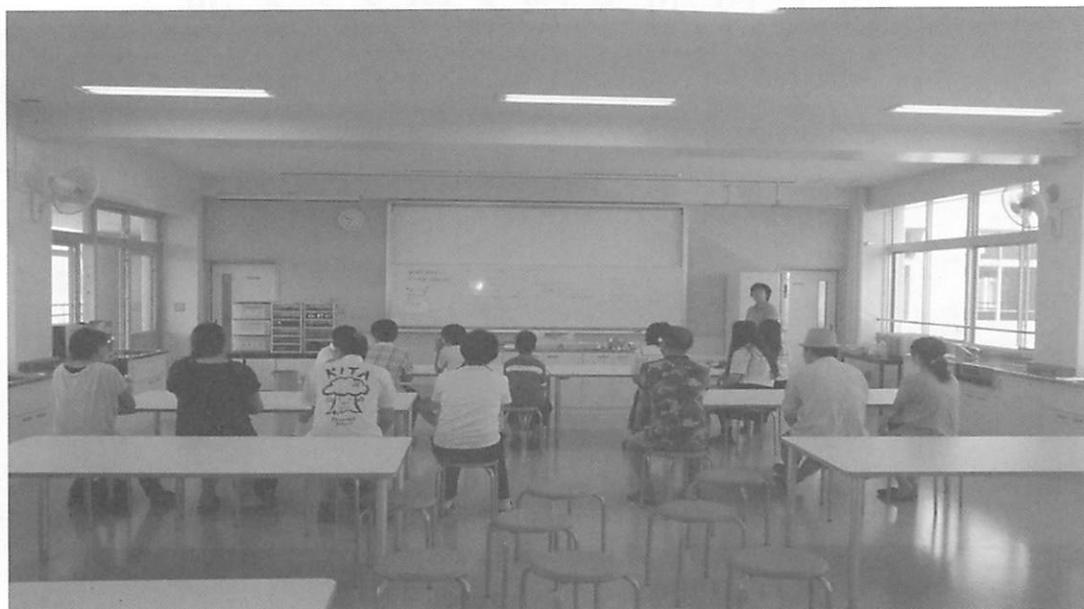
西中特別支援ブロック交流会



西中式次第



加茂中特別支援ブロック交流会



勝北中特別支援ブロック交流会



第四章 今後の課題

- ・ 育成会と教育委員会との連携
- ・ 行政サービスの説明、理解の努力
- ・ 教育機関自体が行政サービスの理解をしていない
- ・ 保護者への情報提供による意識の向上
わからない事がわからない...保護者が多い
- ・ 地域親の会の活性化 卒業後も育成会に加入を

終わりに、

本人達にとって、安心して生活しやすい支援とはなにか...

私達みんなで考え、努力をしてはいかがでしょうか。御清聴、誠にありがとうございました。

子ども親も支援者も それぞれらしく健やかにいられる社会へ

ウィッシュかがみの

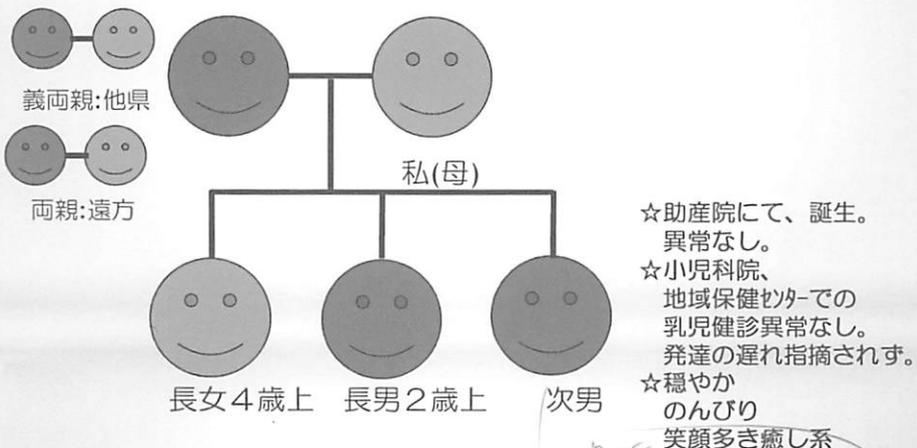
保護者 石田 佳織

第4回 手をつなぐ育成会 中国・四国大会 香川大会
<分科会>
第一分科会『幸せに育ち学ぶ』

子ども親も支援者も
それぞれらしく健やかにいられる社会へ

提案者 アニタ助産院
看護師 石田 佳織

* 1 - ①次男誕生



自然流産 史記

* 1 - ② 幼児期その1

- * 長女長男と同じ幼稚園に入園
(当時長男は年長クラスに在籍)
- * 先生「変です」
- * クラスで孤立
- * 参観して気づいたこと
- * 小児科医との攻防
- * 周囲ののんびり具合
- * 療育センターに

「専門の助け手に会わなくちゃ！」

* 1 - ③ 幼児期その2



- * 身体も弱く欠席しがち。入院
- * 作品展に作品なし・園の写真に次男なし
- * 先生に伝わらない
- * 療育センターから園に出張
- * 次男、療育就学前プログラム
- * 私、ペアレントトレーニング
- * 市の特別支援ファイル1号に

園への介入で、園の先生方も母親である私も
きっと次男本人も生活の困難感が一気に軽減

* 1-④ 入学

- * 「いや」「きらい」の意味 これらを説明することで、
- * その笑顔は困り笑いです 私のいない場所での次男の安定度がすごくあがった。
- * 偏食
- * 眠気
- * 明るくて元気な先生
- * 特別支援会議開催
- * 友だちの存在

* 1-⑤ 「学校行かん」

- * どうしてもトラブル
成長発達は苦悩？
- * お風呂・寝る前おしゃべりタイム
- * 特別支援会議の存在
- * きょうだい

こうしたいけど叶わない
↓ 増えた

人にこうして欲しいのに叶わない

人の表情や言動から、「ばかにされている」「嫌われている」と認識するようになった。
(今までは、いじわるも遊んでくれていると勘違いしていた)

「お母さんは次男の話を聞いてくれるところが好き」
と今でも伝えてくれるのは、この頃のおしゃべりタイムが次男の中の私への信頼になっているのかな（やや自惚れ）

二〇〇〇

* 1-⑥ 充実



- * 成長発達の段階
- * 奇跡？毎日登校する日々
- * 放課後児童ディ・サービス利用開始
- * 特別支援会議2つになる
- * プロ、支援者の存在
- * 保護者が働けるということ

* 1-⑦ 「もう学校辞める。 行きたくない。」

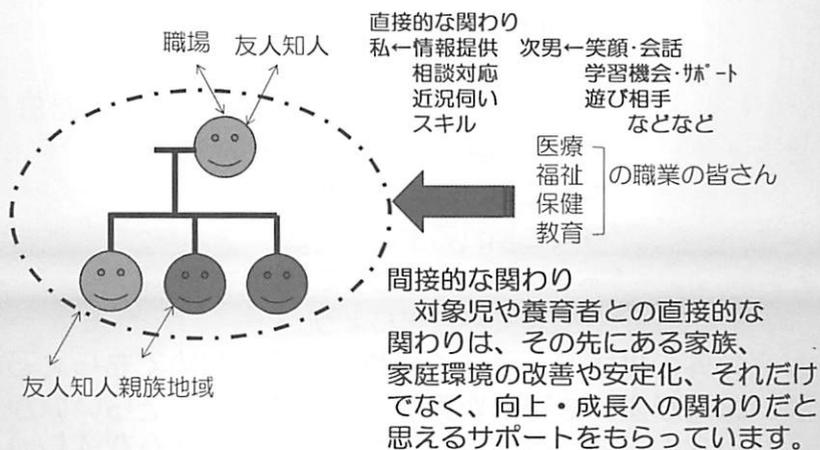
- * 理由は言わず、
とにかく「もう、行かないから！」
- * 「この子は追い詰められている」と思った日
- * 先生、即座に対応。ひとまず解決？
- * 学校に行けなくなりました
- * すぐに崩れる生活リズム
- * 不登校の子どもたちに開かれた施設
- * 「気長くいきましょう」

☆家庭の外の世界で、うまくやれる経験、認めてもらえる経験を。
☆強い感情が湧いた時に次男本人としてどうしたらいいか、客観的
的なとらえの力をつけるようなそんなプログラムが欲しい。

* 2. 母である私の生活

- * 特別支援学級在籍で慢性疾患を持っている子がいる家庭の養育者は、フルタイム労働は不可能？
- * 母子家庭で核家族で親族からの支援無しは、孤独？社会から孤立？・・・いいえ、でも
- * 精神的に追い詰められますか？・・・それはきっと皆
- * 上のお子さんを頼っていていいですね？
 - ・・・それをしない親に私はなりたい
- * 経済的に安定することは、大切。しかし大変困難。
- * 障害者雇用枠のように、障害児の養育者を一定期間雇用した雇い主には、一時金扶助や団体に助成金などの仕組みが欲しい。
- * 養育者たちの団体に、会員の家庭の突然のアクシデント時に一時金とフォローの人を提供する共済のような助け合いシステムが出来て欲しい。

* 3. 医療・福祉・保健・教育 プロと出会うこと



* 4.まとめ

- *プロの支援が、必要とする人々に届きますように。ひとりの子どもに関わるプロ達(多職種)と保護者が一同に介す機会を有意義に。
- *就学後の子どもへの直接的なプロのアプローチの支援がほしい。
- *障害児/者の保護者雇用にも、助成金が出る仕組みを作って欲しい。
- *短時間労働者も正規雇用(の継続)・待遇改善を。
- *看護/介護家族の、もしもの助け合い(共助)システムを作りたい。
- *支援をする側の人間も、健全なよき職場環境とフォローを得て、健康にいてほしい。

ありがとうございました